

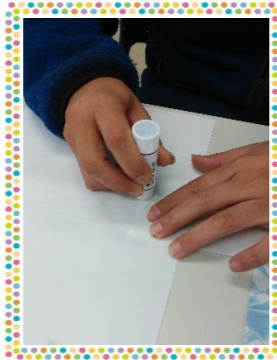
就労準備支援事業 利用者の作品コーナー
貼ってはがせる「手作り付せん」！

～就労準備のプログラムで付せんの電話メモを作っています～

作業の工程



切る



のりづけする



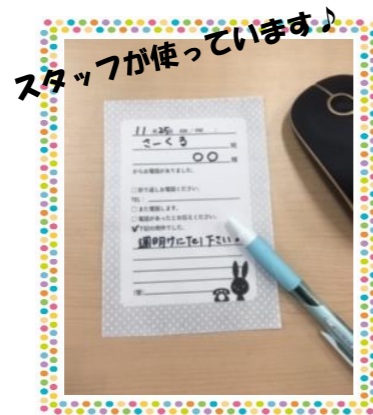
並べる

利用者の感想

- Aさん「のりづけをする時、つなぎ目がつかないか心配なので、気をつけて作業しています」
- Bさん「A4の紙を切って台紙に並べるときに同じ枚数になるように工夫しています」
- Cさん「細かい作業は苦手だけど、ここではいろいろ経験できるので、自分の得手不得手を知ることができる」
- Dさん「手先を使って作業することで気分転換ができています」

《 スタッフの感想 》

- Kさん「貼り付けられるので便利です。メモがなくならなくていい」
- Sさん「便利です」
- Gさん「絵がいろいろあってかわいいので、気分が上がります」



職員紹介

さーくるに新しい仲間が
加わりました！

就労支援員 原田 昇子 10月1日入職

これまでのハローワークでの職業相談員の経験を活かし、働きたい方の出来ること、出来ないことを一緒に考え、その人に合った就労のお手伝いをさせていただきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

令和元年度秋号、いかがでしたか？
さーくるの様々な活動をご報告させて頂きましたが、職員がどういった仕事をしているのか、少しでも皆様に伝われば幸いです。
さて、11月の花として代表的なさざんか。花言葉は「困難に打ちかつ」「ひたむきさ」。この花言葉のように、皆様が対面している困難に打ちかてるよう、ひたむきに相談支援をしていきたいと思っておりますので、何かお困りの際はさーくるまでご相談下さい。



令和元年度
秋号



広報さーくる

内容

- ・第1回地域連絡調整会議の報告
- ・研修報告
- ・就労準備発
- ・総合相談の現場から
- ・利用者の作品コーナー
- ・職員紹介

令和元年度 第1回地域連絡調整会議のご報告

～「就労を目指す高齢者への支援」をテーマに～

地域のネットワーク作りの一環として毎年開催している地域連絡調整会議。今年「就労を目指す高齢者等への支援」と題し、ハローワーク船橋の就職支援ナビゲーター・城谷直孝氏をお招きして9月～11月に市内5ブロックで開催しました

令和元年度 第1回地域連絡調整会議 開催日程

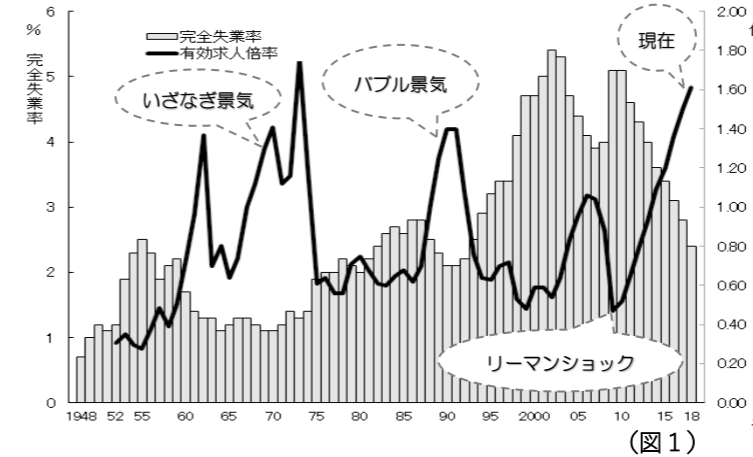
ブロック	開催日	場所	参加者概数
南部	9月19日（水）	市民文化ホール	25人
東部	10月9日（水）	東部公民館	32人
西部	10月23日（水）	葛飾公民館	14人
北部	11月13日（水）	八木が谷公民館	25人
中部	11月27日（水）	新高根公民館	15人

（表1）

（表1参照）。本ページでは、城谷氏の講演内容の一部をご紹介します。

60歳以上の労働者は増加傾向

最近の国内の雇用情勢は、完全失業率 2.2%前後、有効求人倍率 1.6倍前後とかなり良い水準となっています（図1）。今後、人口が減少する中、65歳以上の人口は変わらないので、労働力として高齢者への期待が高まっています。実際、60歳以上の労働者は年々増加傾向にあり、この10年ほどで3倍近くになり、平成30年には327万人にまで増加しました（図2）。



（図1）

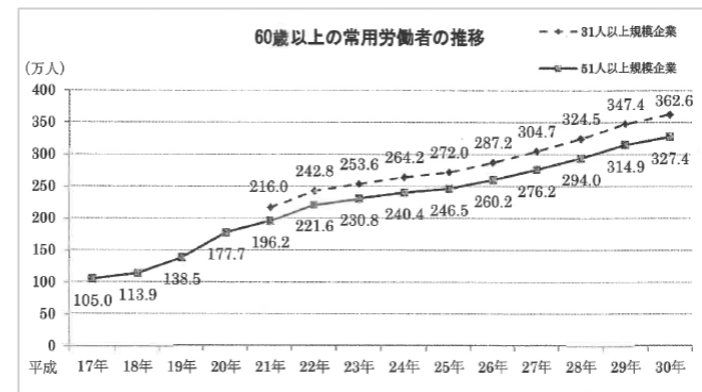


ハローワーク船橋
就職支援ナビゲーター
しろたになおたか
城谷直孝氏

ハローワーク船橋では、65歳以上の方を対象とした「生涯現役支援コーナー」という窓口で、個別担当者制・予約制の支援をスクエア21内の第2庁舎にて行っています。

人口が減る中、高齢者が労働力として期待され、「高齢者の就労支援」という視点はさらに重要になっていきます。支援関係の皆様も今一度、就労という視点を考えてみませんか。

さーくるは、様々な方の就労の可能性を皆様と一緒に考えたいと思います。



（図2）

【編集・発行】
船橋市「保健と福祉の総合相談窓口」さーくる
（船橋市委託事業 社会福祉法人生活クラブ）
所在地：船橋市湊町2-8-11
市役所別館1階
TEL：047-495-7111
FAX：047-435-7100
E-MAIL：circle@kazenomura.jp

第6回 生活困窮者自立支援全国研究交流大会

今年は仙台市で開催!

大会テーマ「困難の折り重なりに生きる人々に支援は届いているか?!
(人の尊厳に根ざす)生活困窮者自立支援の価値(意義・意味)を問う」

令和元年11月3日・4日、第6回生活困窮者自立支援全国研究交流大会が宮城県仙台市で開催されました。当日は、全国から集まったおよそ1000人の参加者全員で、台風被害者へ黙祷を捧げることから始まりました。

今大会はテーマにあるように、「困難を抱え社会の中で生きる」ということを考えさせられる内容で進められました。



東北福祉大学を会場にシンポジウムなどが行われました。

生きづらさを抱える人とは…

- (例)・失業など、つらい出来事がきっかけで自殺を図ろうとする方
・家庭環境に問題があり、家出をして援助交際などをしながら路上で生きる少女たち
・犯罪を繰り返してしまう障害(疑い)のある刑余者

上記のような問題を遠い出来事と感じる方も多いと思います。これからの地域福祉は専門職だけが取り組むのではなく、地域の皆さんが、地域の生活課題を他人事ではなく自分のこととして考え、助け合うことで、誰もが暮らしやすい社会を作っていくことが求められています。

船橋市は人口も多く、地域の課題も様々です。まず地域の中で困っている人がいることを知ることから始めたいと、改めて感じた2日間でした。



2019年度 生活困窮者自立支援制度 ～自立相談支援事業者養成研修～

令和元年10月17日から3日間、厚生労働省主催の研修会が神奈川県で開かれ、全国から420人の相談支援員が集まりました。研修では、自立相談支援を行う相談員の役割や基本姿勢、相談内容に添った支援方法などを学びました。

その中で、支援を受ける側であるひきこもり当事者の方のお話を聞くことができ、とても勉強になりました。自分でも「このままではいけない」と思って苦しんでいることや、相談の予約を取ることもハードルが高く、プレッシャーを感じているなどの生き



づらさや葛藤を知り、当事者の置かれている状況や思いを汲み取って居場所を作っていくことが大切であると感じました。

今回の研修を少しでも今後の支援に結びつけられるよう、皆様と一緒に考えていきたいと思ひます。全国の支援員とそれぞれの地域の取り組みや思いを共有する事ができ、実り多い研修となりました。



全国の支援員とグループワークなどで意見交換をしました。

～就労準備発～



赤い羽根の共同募金 ボランティア活動に参加しました

10月1日、船橋市社会福祉協議会主催で行われた赤い羽根の共同募金活動のお手伝いを、就労準備支援事業の一環としていたしました。

普段から色々なボランティア活動に参加している就労準備の利用者ですが、人通りの多い街頭で見知らぬ人をお願いをするという体験は初めてなので、緊張していました。呼びかけに応じて募金をしてくださった方たちから励ましの言葉をかけていただき、「誰かの役に立つこと」を実感できる1日となりました。



JR船橋駅とフェイスビルの連絡通路で協力を呼びかけました。

赤い羽根のひ・み・つ

Q どうして赤い羽根がシンボルになったの?

A 赤い羽根は、昔から勇気や良い行いのしるしとして世界中で使われてきました。物語に登場するロビンフッドやネイティブアメリカンも赤い羽根を身につけていたんですよ。赤い羽根は「たすけあい」、「おもいやり」、「しあわせ」のシンボルなんです。

(船橋市役所ホームページより抜粋)

総合相談の現場から

将来に向けどう進んだらいいか
不安を感じている若者からの相談が増えています

相談に来る方の人物像 20歳前後の若者。小・中学校から不登校がみだつた。高校や大学を卒業後に進路を決められずに家に引きこもってしまった方や、社会人になったが人間関係へのつまづき等で退職して、家に引きこもってしまった方などです。



相談の経路 本人、親、医療機関、学校関係者など。

相談員のかかわり方

- ・本人の思いをじっくり聞き、一緒に考える。
- ・利用できる制度はいつでも利用できるように準備する。
- ・親や関係機関からの情報や意見を確認する(どんな協力をしてくれるか)。
- ・相談者が将来の選択をする為の機会に繋ぐ。



さーくる

総合相談としての思い

総合相談は、制度の狭間の相談者を支援しています。若者の支援で注意するのは、慌てて制度に当てはめすぎないこと。本人がもつ強み、チャンスを引き出せる方法をじっくり一緒に考えて、寄り添い支援することを心掛けたいと考えています。